



AG-3DA1

“3D コンテンツの可能性を広げる機動力” 各セクション横断の「3D 事業推進室」を新設

株式会社 日テレ アックスオン

テレビ番組を中心にコンテンツ制作を展開する（株）日テレ アックスオンは、制作会社としていち早く「3D 事業推進室」（2010年10月1日付け）を設立するとともに、一体型二眼式 3D カメラレコーダー [AG-3DA1] を導入し稼働を開始した。同社では“3D コンテンツ制作においてもリーディングカンパニーを目指す”としており、“3D everytime（いつでも 3D）”をコンセプトに、[AG-3DA1] の機動性／操作性／コストパフォーマンスの高さを生かして、幅広い 3D コンテンツ制作を提供していく。

日テレ アックスオンではパナソニックの 3D カメラレコーダー [AG-3DA1] について、早期からテストを重ねるとともに、ファーストロットで導入し稼働を開始している。

同社 スポーツセンター スポーツ 2 部チーフプロデューサー 兼 3D 事業推進室の梶田一郎氏は [AG-3DA1] について、「春に開催された展示会で初めて実機を触ったときに、モックアップだと勘違いするほど軽量なことに驚きました」と振り返る。

さらに、「SD カードによる収録データの取り回しについても簡便で、制作サイドとして一貫したワークフローを構築しやすいと思いました。制作が毎日現場へ持ち出せるシステムであり、まさに“3D everytime”のコンセプトに合致した 3D カメラだと考えています。この夏、日本テレビ麹町ビルで開催した『日テレグループ 就活サマーカレッジ』で上映した会社説明用 3D 映像も [AG-3DA1] で撮影しました。この 3D 映像には堺正章さんが出演しコメントをいただきましたが、その撮影は番組の収録スタジオに伺い、10 分ほどの短時間で行ったものです。これまでの HDV 撮影スタイルと変わらない、構えが無いごく自然な収録ができたと考えています。誰もが手軽に持ち出せる機動力が、3D コンテンツの可能性も広げるのだと思っています」と続ける。

3D 事業推進室 次長の佐々木克氏は「左右の光軸／画角／画質合わせなどが不要で即応できる操作性と機動



力は、これまで限られてきた撮影範囲を一気に広げるだけでなく、3Dコンテンツ制作に優れたコストパフォーマンスを提供できると考えています」と、[AG-3DA1] のメリットを語る。

新設された3D事業推進室(神田博室長)は、「制作センター」「情報・ニュースセンター」「スポーツセンター」「映像事業センター」「コンテンツ戦略センター」など、同社の制作事業を担う全セクションから参加した20人体制のメンバーで構成されている。

企画戦略センター企画戦略部 兼 3D事業推進室の山本大輔氏は「3Dはインパクトのある映像表現が可能である一方、その制作手法やコストは非常に幅が広いのが現状です。3D事業推進室では、番組/映画/スポーツ/パッケージ/プロモーション/CMなど各ジャンルに精通したメンバーが参画することで、それぞれのジャンルの狙いに最も適した3D制作を提供していきます」とする。

佐々木克氏は「日テレ アックスオンではあらゆるジャンルのコンテンツ制作を行っていますが、それぞれの市場に3Dコンテンツ制作をキチッと営業していくためには、そのノウハウを早急かつ確実に構築していくことが最も必要だと考えています。われわれは技術会社ではなくクリエイターの集団です。3Dを技術側からアプローチするのではなく、3Dのノウハウを構築した上で様々なジャンルに対して、制作側からの3Dコンテンツ制作を提案していくことを目指しています」としている。



佐々木克氏 山本大輔氏 梶田一郎氏